



安齋正弘

福島県生まれ。木耐協設立当初から技術顧問として組合員の指導や技術開発を行う。2007年国土交通大臣表彰。趣味は社交ダンス

指針編P48、表3.7 床仕様分類で根太仕様は 関係ないのですか?

Q39

A 影響あります。指針P98、表4.4の床倍率を参考に仕様を決めてください。

考察

表3.7の仕様分類は「一般診断」で、表4.4は「精密I」の場合を表現しています。厳密にいけば表3.7の「想定する床倍率」と表4.4との照合のうえ決定すればよいでしょう。

塗り壁で、天井裏・床下で 仕上塗り・中塗りが無い場合、 どこの部分の厚みを採用するのですか? また「付け鴨居等」で欠損しているのは 無視してよいですか?

Q41

A 原則として一番薄い部分の土塗壁厚さで評価しますが、実況に応じて適切にご判断ください。

考察

これはなかなか辛い答えですねー。つまり診断者である貴方がたが「適切に」と、ボールはこちら側に投げられてしまいました。しかし、この質問は「一般診断」として扱われているようです。それなら①Aに基づき、仕上塗り・中塗りを差し引いた、最も薄い部分で決定する。②健全部分の厚さを計測し、端数は切り捨てる。③健全部分の厚さを計測し、端数は切り捨てたうえ、上下部分を無視し(安全側)解説編P31の表3.2の横架材間7割以上を適用する。④①の厚さの端数を切上げる。…等の対応が考えられますが、「仕上塗り・中塗り」が片面なのか、それとも両面なのかでも結果は随分違ってきそうです。

正解なんてないと思いますよ。あんまりシビアにならず、自分を信じて決めましょう。それに1cmとか2cm刻みで基準耐力が設定されているのですから(ある程度の誤差は織り込み済み…ですよ)。

「精密I」なら危険側にならぬよう判断した方が良くも知れませんね(誤差が少ない為)。

「2012年改訂版 木造住宅 の耐震診断と補強方法」の 質問・回答集の確認

3 横綱がモンゴル出身の時代！
相撲つてもう「日本の国技」なんて大きな声で言えなくなっちゃいましたね。彼らの努力には脱帽で、このままでは日本人がかなう筈がない。「向上心と弛まぬ努力」をと、現代の日本人力士に求めることは無理なの

でしょうか？誰が私達の願いを受け止め、頂点を極めてくれるのでしょうか。ケツパレー！日本人力士！
さあ、今月もこの回答集をめぐり、内容・趣旨を確認し日々の実務に活かして参りましょう。

日本建築防災協会に掲載されている文章は、下記ホームページから直接ご覧ください。
〔注〕紙面の都合HPに掲載されている文章から、趣旨を外さない程度に表現を変えています。〕

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wquest.html>

指針編P48、床仕様II (火打+荒床)について、 どの程度(何㎡に1ヶ所)なら、 「火打有り」となりますか?

Q40

A 影響あります。指針P98、表4.4の床倍率を参考に仕様を決めてください。

考察

これもQ39にある、精密Iの表4.4にありますよね。しかも梁成別に設定されていますので参考にして下さい。ここでいう「梁成」とは、対象物件に配置されている梁の平均的な成と考えて良いと思います。